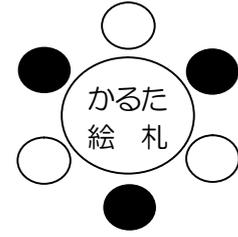


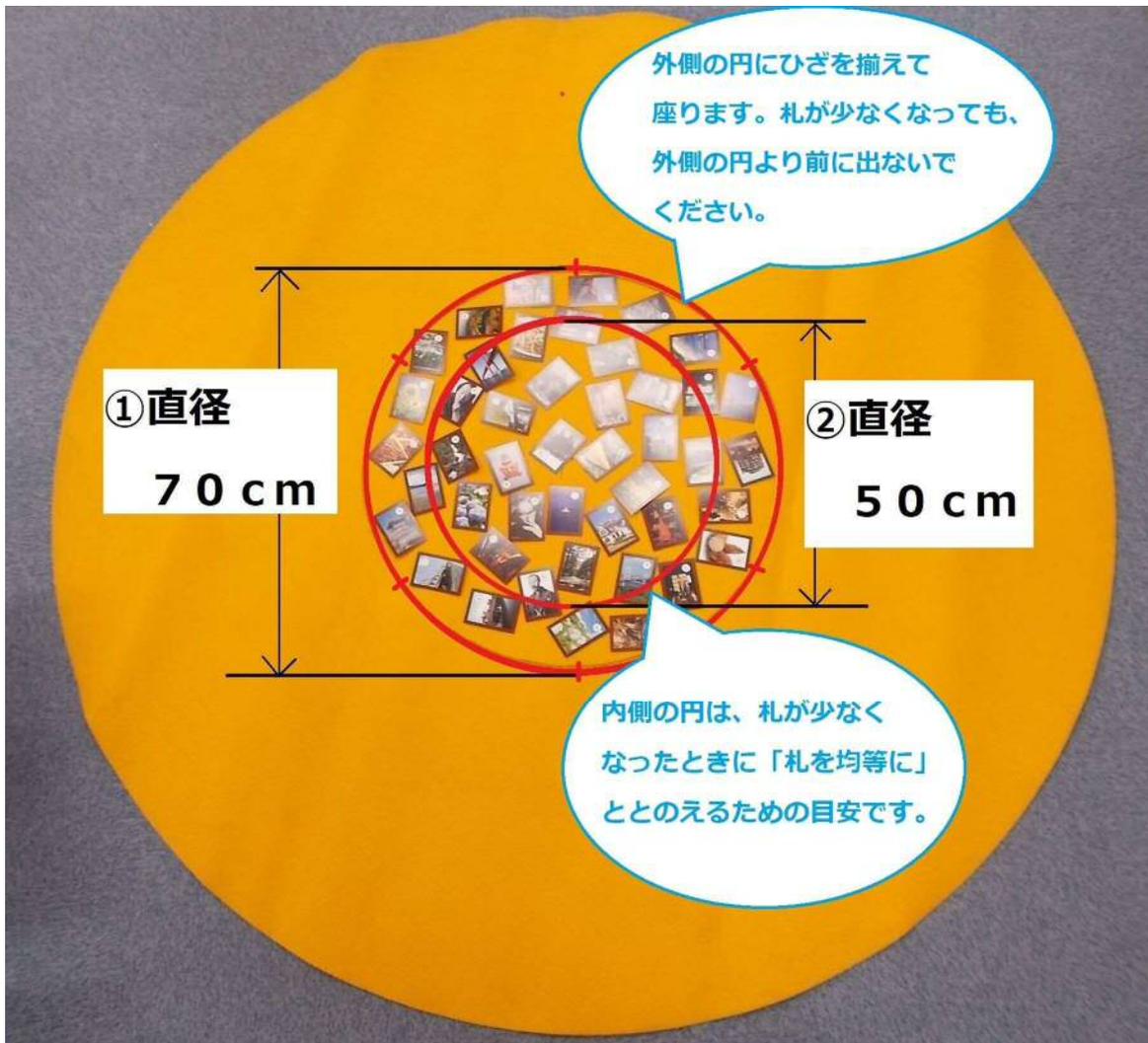
かるた大会競技ルールおよび注意事項

<競技の準備>

- 1 3人1組の団体戦とし、6人2組で試合を行います。
- 2 6人が円になり、自分のチームと対戦チームが交互になるようにすわります。
- 3 絵札は審判員が広げてならべます。
選手の皆さんは絵札にさわってはいけません。
- 4 **選手のみなさんは、かるたマットにある2つの円のうち、“外側の円”に、ひざを揃えて座ってください。**
ひざの位置は、最初から最後まで外側の円に揃えてください。
札が少なくなっても、外側の円より、前に座らないでください。



※内側の円は、札が残り20枚になったときに、札を均等に並べるための目安の円です。



<覚える時間>

- 5 絵札をならべた後、試合を始める前に1分間で絵札の場所を覚えます。

<読み手> ※進行役が代表して読みます

※裏面に続きます

- 6 45枚の読み札から4枚を抜き、41枚の絵札で勝ち負けを決めます。
(試合が終わると4枚の絵札が残ることになります。)
- 7 読み句はそれぞれ2回読み上げます。

<競技開始>

- 8 試合中の基本姿勢として、両手はひざの上においてください。
かるたマットの外側の円に、ひざを合わせて座り、ひざより前に頭を出してはいけません。
- 9 絵札を取るときは、しっかりと手で押さえてください。
絵札を飛ばしても取ったことにはなりません。また、両手で2枚取ることもできません。
- 10 お手つきはありません。ただし、わざとのお手つきはやめてください。
- 11 どちらが取ったかわからないときは、審判員が判断します。
- 12 途中で絵札の位置を変えてはいけません。
絵札の空いたところできて、真ん中に絵札を寄せるのは審判員が行います。

<採点方法>

- 13 採点は1枚1点とします。『やく札』は1枚2点とし、『やく札』の種類は試合が始まる前に発表します。
※ 『やく札』の例：【市共通札】「な」環境都市、「ひ」わっしょい百万夏まつり、
「ほ」ひまわり、「む」五市合併
そのほかに【お祭り】【食べ物】などがあります。
- 14 採点は審判員が行います。
- 15 同点の場合は、『やく札』の多い方が勝ちです。

<競技上の注意>

- 16 騒がしいと読み手の声が聞こえにくくなります。試合中の私語はおやめください。
- 17 「を」の札は詠み句が「ふ」から始まりますので注意してください。
※ 「を」の句⇒「ふるさとと 河童を愛した 火野葦平」
「ふ」の句⇒「ふるきよき 時代とどめて 門司港駅」
- 18 故意のお手つきと主審が判断した場合は「レッドカード」を宣言します。
宣言された選手は、その時点から試合に参加できず、また次の試合にも出場できません。
お手つきだけでなく迷惑行為はすべてレッドカードの対象とします。